

令和6年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・友達のよさを見付けて発表したり、教え合ったり（手伝ったり）する活動を取り入れることができるようになったことで、運動ポイントの理解がすすんだり、運動への意欲の高まりが見られるようになった。
- ・改善プランで示したことで、授業での運動時間・運動量の確保ができるようになってきた。
- ・1時間2単元の学習計画を取り入れたことで、スモールステップの実践を行うことができ、技能の向上につながった。

(2) 課題

- ・ICTを活用した授業が十分とはいえないので、校内研修を行ったり活用例を示したりする必要がある。
- ・成果として表れている点もあるが、スモールステップの実践を行う際、運動の系統性をもたせて6年間を見通した指導を継続する必要がある。
- ・暑さで体育授業日や内容が制限されてしまうことも多かったため、年間指導計画を再考する必要がある。

2 分析（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○健康や安全に気を付けて過ごすためには、どのようにしたらよいかなど、全体で知識を共有する様子が見られた。	○友達の良さを見付けて発表することで、運動のポイントについて思考、表現する姿が見られた。 ○教師の提示した運動のポイントを基に、友達のよい動きを見付けて褒め合ったり、友達同士で教え合ったりすることで、技能を向上しようとする様子が見られる。	○スモールステップで学習計画を立てることで、運動が苦手な児童もすすんで学習に参加する姿が見られた。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○友達同士で教え合い、技能を向上しようとする様子が見られる。 ○補助をし合いながら運動に取り組むことで、新たな技能を獲得することができた。	○すすんで運動に取り組む児童が多く、考えながら運動に取り組もうとする児童も多い。 ○友達のよい動きを見ることで、思考しながら運動に取り組む姿が見られた。	○児童の関心・意欲・態度は高い。苦手意識をもっている児童もすすんで参加する姿が見られる。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○日常の運動経験・運動量の差が表れている。体力テストの結果が上位の児童は、日常の運動時間が多く、多くの単元で活躍することが多い。	○技能向上や自分のめあてを立てることについては、関心が高い。ニュースポーツなどは、少しずつ理解していくとともに、互いに教え合い、学び合おうとする態度が見られるようになってきた。	○全体的に運動への関心・意欲は高い。苦手意識をもっている児童も活動の仕方を工夫することですすんで参加する姿が見られている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○具体的な場면을挙げて児童の生活体験と照らし合わせた授業を行い、理解させていく。 ○褒め合い、教え合いの場を設け、一人ひとりがよい動きのポイントを知り、技能を向上させていく。 ○領域ごとに学年の到達目標を明らかにして、6年間を見通した指導ができるようにする。	○指導内容を明確にし、運動の特性に応じた指導を行うために易しい運動遊びをしっかりと行う。 ○友達の運動を観察させる際には、事前に運動のポイントを示しておき、知識を基に思考・判断・表現ができるようにする。 ○運動の場や用具を変えながら自分なりの工夫を見付け、課題に取り組むことを大切にしていける。	○易しい運動遊びや易しいゲームを通して運動の楽しさを十分に味わわせる。 ○必要に応じてゲームに得点化を取り入れる。 ○運動の課題解決を目指すため、意欲が持続するような運動を行えるような工夫をする。 ・振り返りカード・ノートに学びを記録し、自身の成長を感じることができるようにする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○児童の生活体験と照らし合わせた授業を行い、理解させていく。 ・具体物を用意し、視覚的・体験的に学習が理解できるようにする。 ・一人ひとりが自分の目標や課題を明確にし、技能を高められるようにワークシート等を活用する。 ・教え合いの場を設け、一人ひとりの技術を向上させていく。 ○領域ごとに学年の到達目標を明らかにして、6年間を見通した指導ができるようにする。	○自分の課題を見付けて、できるようになるまで努力を続けようとする態度を育てる。 ・めあての設定の仕方について助言を行う。必要に応じて個別に指導する。 ・ペアやグループでの学習の場を多くして、互いに運動を見合う時間を設定する。 ・児童が見付けた運動のコツや工夫したことを伝え合う場や時間を意図的・計画的に設定する。 ・児童が自分自身の学習を記録し振り返ることができるように、振り返りカード・ノートを活用する。 ・指導者がよい動きを紹介したり動画を撮影したりして、児童が自分の動きを客観的に見られるようにする。	○苦手な児童が楽しんで参加できるようにする。 ・ルールや場の設定を工夫していく。また、児童が自分で選べるようにする。 ・ゲームでは、得点を取りやすいルールや場を設定し、成功体験を増やして意欲を高めていく。 ・ゲームでは、児童と一緒にルールを作りながら取り組み、意欲を高めるようにする。 ・振り返りカード・ノートに学びを記録し、自身の成長を感じることができるようにする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○児童の実態に合った授業作りを行い、実生活で生かすことができるようにする。 ・けがの防止について理解させるだけでなく、簡単な手当等の体験学習を行う。 ・身の回りの危険について、より身近な具体例を用いる。 ・心の発達及び不安や悩みへの対処法について理解を深め、解決したり誰かに相談したりできるよ	○互いに教え合い、学び合おうとする態度を育てる。 ・集団で課題に取り組める機会を多くする。 ・児童が工夫した動きをお互いが評価し合える工夫をする。その際の声掛けの仕方の例を指導者から提示したり、児童と考えたりする。 ・授業の中で、指導者がよい動きの共有化や評価を伝える場面を	○楽しさを見出せず、苦手意識が拭えない児童へ、次のことに取り組む。 ・できばえではなく、楽しく行えるような易しい運動の場を設定する。 ・あまり技能が高なくてもゲームが楽しめるように、易しいルールやゲームの設定をする。 ・学年や学級の実態に応じて、下の学年の学習教材を取り組ませ

うにする。 ○運動経験の差が大きく影響している実態に対応して、次のことに取り組む。 ・練習の仕方や運動の場を工夫して技能を高める。 ・運動が得意な児童から、苦手な児童へ教え合いの学習の場を設定する。学習カードや体育ノートなどを利用し、一人ひとり目標を定めて取り組むようにさせる。 ・ゲーム・ボール運動では、運動が得意な児童も苦手な児童もみんなが楽しめるルールづくりなどを工夫して、みんなが運動に親しみ、誰もが活躍できる場面を作れるようにする。 ・指導者が小さな課題を段階的に組むことにより、児童の技能を高める工夫をする。そのための資料を作成する。 ○領域ごとに学年の到達目標を明らかにして、6年間を見通した指導ができるようにする。	増やし、児童同士でもお互いに教え合い、アドバイスしやすい環境をつくる。 ・ワークシートをチームで共有化したり、兄弟チームで客観的に見た様子を伝えたりするなどの機会を設ける。 ・I C Tを活用して個人の動きを客観的に見ることでできる環境をつくる。 ・児童が自分自身の学習を記録し振り返ることができるように、振り返りカード・ノートを活用する。	る。 ・運動の楽しさや喜びを味わえるように、自分で考え活動を工夫できるようにする。 ・児童が立てた作戦が成功して得点しやすくなるよう、簡易化したゲームやルールを設定をする。 ・新しい教材に取り組むことで、児童にとって全員がほぼ初めてという状態から始める。苦手意識が少ない状態でも、楽しく取り組めるようにゲームやルールを工夫する。 ・振り返りカード・ノートに学びを記録し、自身の成長を感じることができるようにする。
---	---	--